



写真：北田英治

「児童養護施設 東京サレジオ学園」 ——改築後25年を経て

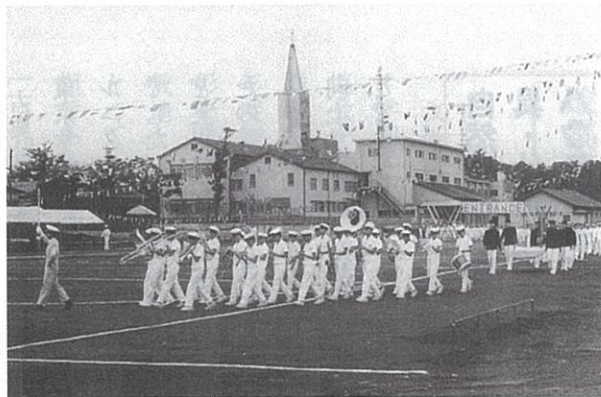
東京サレジオ学園 施設概要

児童養護施設（定員106名・男子） 地域小規模児童養護施設（6名・男子）
東京都小平市上水南町4丁目7番1号 <http://www.salesio.or.jp/>
敷地面積：62,566.85㎡／延床面積：8,872.36㎡
1990年2月移転改築／1994.2004.2009改修
設計：坂倉建築研究所／藤木隆男建築研究所 施工：日本国土開発株式会社／戸田建設株式会社

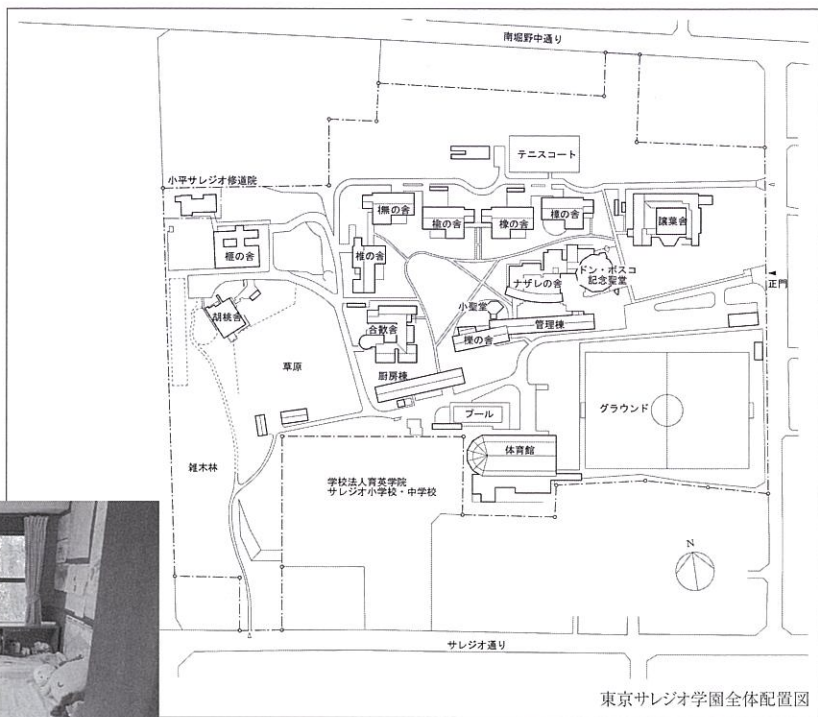
東京サレジオ学園は、戦後間もなくの1948年に、東京都小平市に創立された社会福祉法人の児童養護施設です。旧陸軍建物などの増改築で40年ほどをしのいできましたが、その園舎全体の老朽化がすすみ、また、「大舎制／ヨコ割り（同年齢）／集団的養護／園内教育」という伝統的なヨーロッパの寄宿学校のような養護スタイルを刷新する必要から、行政（東京都）の全面的理解と施設整備補助を得て、1984年から約7年間、4期にわたる設計・工事を行い、1990年2月、低層・分散配置・12棟の建物からなる新園舎への移転改築事業が完成しました。

脱施設化 ——子どもたちに「家」を

「子どもたちに最善のものを」「よい環境は子どもをよりよく育む」という理念のもとに始められたこの移転改築事業の計画内容は、施設側スタッフによる建築委員会と設計チームによる長期かつ頻回にわたるヒアリングと真摯なディスカッション、数多くの既往施設見学などの成果でした。つくられたものは、「小舎制／タテ割り（異年齢）／個別的養護／公教育（通学）」という養護方式であり、「子どもたちの住む『家』（住宅的な園舎）」というハードな施設整備でした。その考え方は当時、関係者間で養護方式と施設整備の「ノーマライゼーション＝脱施設化」というキーワードで共通認識されていましたが、いわば



右頁：中庭に開かれた園舎デッキテラスでのバーベキュー風景
本頁上：田園の集落のような新園舎全景
下：改築前の旧園舎全景



右頁：植え込みに囲まれた児童園舎外観「樞の家（ぶなのいえ）」
左：密度濃く住み込まれた児童居室（ねむの舎／中1）

自然素材・色・形、家具・什器・備品・緑化、ハウスキーピング

「古典的な児童養護施設であった東京サレジオ学園のあり方のコペルニクス的転回」を意味するものでした。資金面、スタッフ体制など実現への多くの困難を克服できたのは、園長をはじめとする学園スタッフの「子どもたちのQOL向上」への強い希求があつてのことでした。

東京サレジオ学園の建築空間／環境にはいくつかの特徴があります。まず「家づくり」ですが、それは瓦ぶきの勾配屋根（家型）で、コンクリート打ち放しの壁と木製家具・建具・床の設えなど、自然素材でできています。またそれは「子ども向けの鮮やかな色彩や楽しい造形」を避け、普通の家に求められるぬくもりと品格を

もたせ、外部空間（芝生の庭）に開いた『自然な住宅／集落』として計画されました。さらに什器・備品類は、個別によくセレクトされたモノで整えられ、それぞれ色柄の違う陶器の茶わんやインド綿のベッドカバーなどが一人ひとりの子どもに与えられています。緑化は特に大切にされ、主として自然樹形のかん木や雑木で構成されています。

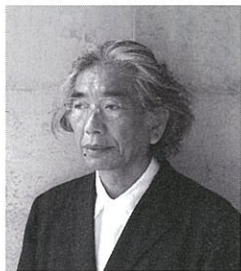
このように子どもの生活空間・環境を、稀有なこだわりをもって改築整備した東京サレジオ学園ですが、その後の入念で良質な維持管理Ⅱ「ハウスキーピング」もほかにあまり例をみないもうひとつの特筆すべき点です。「児童居室の清々しい風通し」「清潔な衣類やベッドメーカーキング」「よくテールセッティングされたあたたかい食事」「季節感豊かな催事や楽しい旅行」「学校／地域への積極的な参加と交流」など整備当初の

空間・環境を極力保存・活用し、「古美つつブラッシュアップ」される児童の育成／生活環境が醸成されてきています。それは、「受容と傾聴」「愛着の器づくり」という、改築後さらに深化してきたサレジオの養護理念実践の場にふさわしい様相を呈してもいます。

改築後25年を経て —— 問題点と展望

改築後25年を迎えた東京サレジオ学園ですが、先頃、日本建築家協会から優れた建築の適切良好な維持管理状態に対する「2014年度第14回JIA 25年賞」の表彰を受けました。しかし、広大な敷地と多数の建物をもつ施設にとって、長期的な修繕は大きな負担であり、課題です。さらにその先に、遠からず訪

れる「小規模グループケア」への制度的移行の時期が迫ってきています。その時、熱意をもってつくられ大切にハウスキーピングされている、「美しい町屋や古民家のような『東京サレジオ学園』」に次の改築の時が来るのでしょうか。



みじき たかお
藤木 隆男
建築家
藤木隆男建築研究所代表

* 筆者は、坂倉建築研究所で当初の改築を担当、藤木隆男建築研究所でその後の増改築・改修・建物管理を行っています。